

## 澤乃泉ファンが集結

### 日本酒イベントで蔵開き

「酒蔵見学会in澤乃泉」(石越醸造主催)は3月17日、チャチャワールドいしこしをメイン会場に開かれ、市内外から日本酒好き約千人が訪れました。

会場には澤乃泉の試飲、販売コーナーのほか、はっとななどの出店が並び、豪華景品が当たる抽選会も催され、にぎわいをみせました。酒蔵見学会に訪れた一杉昌玄さん(41)＝美里町＝は「機械生産ではなく、人の手によって昔ながらの製法で造られていることを知りました。いろんな日本酒を飲んできましたが、澤乃泉が一番おいしいと思っています。もっといろんな人に飲んでほしいですね」と話していました。



会場から酒蔵まではシャトルバスが運行。従業員の説明を聞きながら、普段見ることができない酒蔵の見学を楽しんでいました。

## 海外で民俗芸能披露

### 上町法印神楽が中欧公演

「祈りと祝い—東北に息づく神楽の伝統—」(国際交流基金主催)は、2月20日にハンガリーのブダペスト、23日にポーランドのワルシャワ、26日にグダンスクの各会場で開かれ、上町法印神楽(豊里町)が黒森神楽(岩手県宮古市)と共演し、勇壮な演舞を披露しました。

上町法印神楽は、同保存会の会員9人が出演。舞台上に大乗飾りを施し、「道祖」と「日本武尊」を演じました。高橋啓一会長は「どの会場でも大きな拍手と歓声が上がリ、文化は違えど良き伝統は受け入れられることが分かりました。今後も若い人たちにしっかり継承していきたい」と初の海外公演に手応えを感じていました。



地域の伝統文化を、海外で初披露した上町法印神楽。和太鼓や笛の音色に合わせた華麗な舞で、会場全体が熱気に包まれました。

## 風土とフードを堪能

### 長沼恒例お祭りマラソン

6回目となる東北の春フェス「東北風土マラソン&フェスティバル2019」(同実行委員会主催)は3月23、24の両日、長沼フートピア公園を主会場に開かれ、ランナーや来場者が東北の風土とフードを満喫しました。

今年のテーマは「アミューズメントパーク」。来場者は、テーマパークやアニメのキャラクターなどさまざまな仮装を披露しました。ランナーは、コース内のエイドステーション(給水所)で「登米市産仙台黒毛和牛のサイコロステーキ」や「初恋さくら(甘酒)」、南三陸町産の「めかぶの味噌汁」など、東北の食を楽しみながら、まだ冬の寒さが残った長沼を駆け抜けました。



フル、ハーフなど9部門に、計5826人が参加し、さまざまな仮装で大会を盛り上げました。

## 住宅ローン金利優遇

### 住宅金融支援機構と協定

市と住宅金融支援機構の「【フラット35】子育て支援型・地域活性化型に係る相互協力に関する協定締結式」は3月12日、迫庁舎で開かれ、市と住宅金融支援機構(清水俊夫東北支店長)が協定を締結しました。

住宅金融支援機構は、子育て世帯の移住・定住の支援などで市に協力。市が実施する住まいサポート事業補助金と空き家改修事業補助金の対象者の住宅ローンを、一定の条件を満たすことで、当初5年間の借入金利を0.25%引き下げます。熊谷盛廣市長は「子育て世帯の住宅取得支援や本市への移住を促進することで、地域活性化につなげたい」と期待を込めました。



協定書を手にする熊谷市長(右)と清水支店長。清水支店長は「まちづくりを市と協力して進めていきたい」と語りました。

## 期待を膨らませ入園

### 白鳥水の里こども園開園

4月1日に開園した、白鳥水の里こども園(三塚久美子園長)の入園式は、4月6日に行われ、0から5歳の89人が入園しました。

同こども園は、幼保連携型の認定こども園で、保育が必要な子どもは0歳から入園が可能。3歳からは幼児教育と保育を受けることができます。入園式で三塚園長は「保育教育内容、環境、職員の質にこだわって役割を果たしていきたい」と話し、保護者を代表して挨拶した高橋英之さん(34)＝迫町光ヶ丘西＝は「いろいろなことを経験し、さらにたくましく成長してほしい」と願いを込めました。



入園した園児たちは、初めて顔を合わせた新しい友達と仲良く話し、名前を呼ばれると大きな声で返事をしていました。

## 経営力向上に向けて

### 補助金で事業者を後押し

「平成31年度補助金等活用セミナー」は3月13日、中田農村環境改善センターで開かれ、参加者28人が農業や商業に関する補助金などについて学びました。

セミナーは、市内の生産者や事業者らに補助事業などを情報提供し、支援策を活用しながら産業の育成や経営を後押しすることが目的。当日は、国や県、市それぞれの補助金や日本政策金融公庫の融資制度などについて、各担当者からの説明や個別相談会がありました。消費税増税に伴うキャッシュレス決済を使ったポイント還元制度など、新規事業についての解説もあり、参加者は熱心に聞き入っていました。



若者や女性の参加者も見られ、経営力向上に対する関心の高さがうかがえました。